

臨時総会 蓬会長退任挨拶

会長退任にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

早いもので、平成 25 年の臨時総会において、第 32 代会長の大役を仰せつかったから 2 年の月日が流れました。

会長に就任してから、私が最優先事項として取り組みましたのは、東日本大震災からの復興であります。

この 2 年間で、避難を余儀なくされている方々の数は、10 万人近く減りはしたものの、その数は未だ 20 万人を超えており、復興への道程はまだまだ長く、厳しいものと言わざるをえません。

本年度で「集中復興期間」が終了し、来年度からは「復興・創生期間」と名付けられた復興の新たなステージが始まりますが、新役員の皆様におかれましても、被災町村が復興のための事業を滞りなく実施できるよう、被災地の声に耳を傾け、引き続き、この問題に取り組んでいただくことを期待するものであります。

また、道州制導入阻止をめぐる取組みも深く記憶に刻まれております。

与党による道州制推進法案提出の動きを、全国の町村議会議長が協力し、道州制導入反対の意見書の提出や地元選出国會議員への直接の働きかけなどにより、上程直前で阻止することができました。

このとき私は、ひとつ、ひとつの町村は小さくとも、団結することで大きな力となることを痛感させられました。

今、我が国は、人口の減少と東京の一極集中を克服するため、国をあげて「地方創生」に取り組んでいる最中です。

過疎や人口流失に頭を悩ませる町村にとって、「地方人口ビジョン」や「地方版総合戦略」を策定することは、簡単なことではありませんが、行政と議会が危機感を共有し、活発な議論を経て、この難関を突破することを期待いたします。

思い起こせば、我々町村は、市町村合併や道州制導入の動きなど、10 年以上もの間、国の地方をめぐる政策に振り回され続けて参りましたが、この「地方創生」にあたり、安倍総理大臣からは、これまでの国主導のやり方でなく、地域の発想や創意工夫を生かした、個性と魅力あふれる地域づくりを、国がしっかり後押しする、と約束していただきました。

地方創生と地方分権改革が相乗効果となって、全国津々浦々の町村が更なる発展を遂げることを願って止みません。

振り返りますと、長いようで、あっという間の2年間でございましたが、飯田新会長にバトンを渡すときが参りました。

飯田会長には、強いリーダーシップを発揮していただき、町村が直面する諸課題の解決に向け、ご尽力賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりましたが、在任中は一方ならぬお力添えを賜り、誠にありがとうございました。

皆様方のご支援とご協力に今一度、感謝を申し上げ、会長退任にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2年間、どうもありがとうございました。

平成 27 年 7 月 16 日

全国町村議会議長会会長 蓬 清 二